

糖尿病・代謝内科

1. 目的と特徴

「糖尿病があっても糖尿病がない人と変わらない人生を過ごせるよう、全力で応援する」というコンセプトのもと、昭和50年7月に東京女子医科大学糖尿病センターは設立され、以後全国の糖尿病診療における先駆的役割を果たしてきた。

糖尿病専門医は、糖尿病をもつ患者の血糖値を良好に維持することにとどまらず、糖尿病性合併症の予防と治療に積極的に携わることが重要である。そのため当科では、糖尿病性腎症・末期腎不全、神経障害、心臓病、末梢動脈疾患・四肢壊疽、肥満・脂質異常症、妊娠、小児・ヤング糖尿病、高齢者糖尿病、遺伝子医学など糖尿病・代謝内科のサブスペシャリストに加え、メディカル・スタッフとして日本療養指導士認定機構認定療養指導士の資格を持つ看護師、検査技師、管理栄養士が緊密に連携することによって、個々の患者の病態に合わせた患者中心の個別化治療を行っている。

糖尿病専門医療施設としてわが国最大規模を誇る東京女子医科大学糖尿病・代謝内科は、糖尿病専門医をめざす熱意のある医師に対し、今後も充実した臨床研修の場を提供する所存である。

2. 指導スタッフ

教授	中神朋子、佐藤麻子（兼）、岩崎直子（兼）
准教授	三浦順之助
講師	小林浩子、花井 豪、大屋純子

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学糖尿病・代謝内科

研修協力施設：東京女子医科大学足立医療センター、東京女子医科大学附属八千代医療センター、済生会加須病院

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

豊かな人間性、幅広い見識、社会に貢献する使命感と責任感を持ち、糖尿病を中心とした代謝疾患の診療に従事できる医師となるために、内科医および糖尿病専門医として診療に必要な基礎知識、技術を習得し、慢性疾患としての糖尿病診療に特に必要となる患者を思いやる温かい心と診療態度を身につける。

B：具体的目標

- 1) 一般内科診療に必要な基礎知識を習得し、臨床に応用する。
- 2) 糖尿病を中心とした代謝疾患の診療に必要な知識を習得し、臨床に応用する。
- 3) 必要に応じて他の専門診療科に適切にコンサルテーションすることができる。
- 4) 多くのメディカル・スタッフと協力し、チーム医療のもとに患者の問題点を解決する。
- 5) 患者・家族の訴えを正しく理解し、患者の苦痛を受けとめる。
- 6) 患者・家族に病状・治療方針を適切に説明できる。
- 7) 医療安全管理の基本を説明し、正しく実践できる。

- 8) クリニカルパスを理解し、適切で無駄のない検査・治療計画を立てられる。
- 9) 個人情報保護法を理解し、正しく実践できる。
- 10) 治療方針について上級医、指導医と相談できる。
- 11) 医療記録（診療録、病歴要約など）、診断書、報告書を遅延なく記載する。
- 12) 医局の症例検討会で報告し、討論に参加する。
- 13) 最新の医学・医療情報を常に収集し、抄読会（イブニングレクチャー）で発表する。
- 14) 学会に参加し、発表し、次の研究企画を立てる。研究成果を論文として発表する。
- 15) 患者・家族・一般向けの糖尿病教育活動に積極的に参加し、支援する。
- 16) 下記に掲げる認定医および専門医申請資格を得る。

- ・内科専門医
- ・糖尿病専門医
- ・内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

年次	卒後年次	身分	病棟業務	外来業務	関連病院への派遣
第1年次	3年	後期研修医	病棟担当医	予診 救急対応 など	この期間の 1～2年
第2年次	4年		病棟担当医・初期研修医の指導		
第3年次	5年		病棟担当医・初期研修医および 後期研修医（下級）の指導		
第4年次	6年				
第5年次	7年		病棟担当医／研修指導医／ 他科コンサルテーション	予約外 診療担当医	

※研修内容概略と資格申請

- | | |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1年から2年次 | <ul style="list-style-type: none"> ・内科診察全般に必要な検査、手技の習熟 ・病歴要約の適切な記載法の習熟、習得 ・課題発見、解決型の考えに基づいた総合内科型研修 ・課題から抽出した臨床研究を開始（倫理委員会書類作成） ・糖尿病・代謝疾患の疫学、成因、病態、合併症、治療を学ぶ ・希望する内科での研修 ・関連研修病院での一般内科研修 |
| 3年から4年次 | <ul style="list-style-type: none"> ・病状・治療方針を適切に説明できる ・他科、専門診療科に適切に紹介できる ・糖尿病、メタボリックシンドロームを含む代謝疾患に精通 ・クリニカルパスを理解し、適切な検査治療計画に習熟 ・治療方針について上級医、指導医と詳細に相談できる ・個人情報保護法に基づいて正しく実践 ・自分で最新の医学情報を常に収集し、発表できる ・医療安全管理の基本を理解し、実践できる ・メディカルスタッフと協力し、チーム医療に習熟 ・関連研修病院での一般内科研修 |
| 4年から5年次 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療記録、診断書、報告書を十分に完成できる ・医局の症例検討会で報告、討論に習熟 ・研究計画を立て、遂行することができる ・患者・家族、一般向けの糖尿病教育活動の支援ができる ・産科、外科をはじめとする他科からのコンサルテーション要請に十分に対応できる |

- ・小児ヤング外来、妊婦外来、肥満外来、腎外来、神経外来、フットケア外来など特殊外来の支援ができる

D：週間予定

	9：00～12：00		13：00～16：30	16：30～
月	11：00～ 1型糖尿病回診	休 憩	13：00～ 病棟長回診	病棟・外来
火	病棟・外来		病棟・外来	
水				
木			13：00～ 教授回診	医局会（抄読会）、 学会発表予演会、その他
金			病棟・外来	
土			病棟・外来	

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、当科助手もしくは助教として就職を希望するものは、教授・基幹分野長およびスタッフによる協議により、本学病院の定める定員範囲内でその採否を決定する。

6. 大学院・医学博士

後期臨床研修を行いながら、大学院課程へ進学することも可能である。研究は教授・基幹分野長およびスタッフの指導のもとに行う。大学院課程に進んだ場合、1年間は診療業務から離れて研究に専念することが可能である。

大学院課程に進まない場合も、教授・基幹分野長およびスタッフの指導のもとに論文をまとめることにより、医学博士（乙）の学位の取得が可能である。

7. 問い合わせ先

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学

内科学講座 糖尿病・代謝内科学分野

医局長 神山 智子

TEL: 03-3353-8112 (内線 27117) FAX: 03-3358-1941

e.mail: Suzuki.tomoko@twmu.ac.jp

東京女子医科大学 HP アドレス：<http://www.twmu.ac.jp/univ/>

当科 HP アドレス：<http://twmu-diabetes.jp/>

見学はいつでも可能であり、医局長に連絡ください